

SSKU

2020年度

夏号

お元気ですか？ イリアンソス です。



Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「コロナ禍の“今”を考える」

Page6 活動報告

Page7 職員リレー「仕事で大切にしていること」

連載

理事長の散歩道

(21)

「未だ終息しない新型コロナ」

社会福祉法人イリアンソス

理事長

磯部光孝

本当に大変です。法人の利用者は、障害の重い方が多く

切に進めていかなければと思っています。

体温調整が難しく、普段から

▼自分たちで守る暮らし

熱発される方も何人かおられます。今回、この新型コロナ

わたしたちのグループホームでも、新型コロナの対策を検討しています。4つのユニットで28名の方々が暮らし、40名近くのスタッフによって365日の支援を行っている中で対策は、非常に難しいと考えています。

の流行により、熱発イコ

らし、40名近くのスタッフ

ルコロナと思われるがちで、検査も進んでいない中、利用者

家族、スタッフも含め法人全体で危機感をもって対応しています。

また、利用者の行動範囲は

しかも、国からは、民間の事業所には直接的な支援はありません。医療機関との連携体制も事前に確保しておく

とても狭いため、コロナの感染になる機会は少ないと考えています。しかし、家族の方

なさいといった内容です。運営費については、利用者が利用しない場合の対応やスタッフが休んだ時の体制不足

をしなければならぬので、

に対しての緩和策に留まっています。検査なども優先的に受けさせてもらえません。

利用者が感染するとすれば、

家族やスタッフからの感染ではないかと考えています。

そのために、家族やスタッフ

の情報も大切にしながら一人ひとりとの信頼関係を大

切に進めていかなければと思

る利用者の健康状況の把握やスタッフの健康管理、家族との情報交換などを丁寧にやりながら、日々の支援をしているのが現状です。

▼大切な地域の行事も中止に

こんな状況の中、地域のさまざまな行事が中止となっ

ています。4月には花見、映画の上映会、夏祭りなどもず

つと中止となっています。さらに、東久留米市で20年間ずっと開催していた「夕涼み会」も中止とさせていただきます。

この「夕涼み会」は、

30年前に東久留米駅北口において、障害者施設の移転計画が地元の方々からの反対運動にあったことが開催のきっかけでした。東久留米市は、それまで福祉、特に障害福祉には理解のある地域

だと感じていました。しかし、

精神の障害のある人たちの施設移転の計画段階で賛同を得られなかったことは、とてもショックでした。

そこで、普段から地域とかかわりのある行事を行おうと学芸大学附属特別支援学校の校庭を借りてお祭りをするようになったのです。あれから毎年市内の事業所の協力のもと暑い8月の第1週の土曜日に開催をしてきました。各事業所の模擬店、盆踊り、エイサー、フラダンス等々と最後は花火の打ち上げです。多くの方々が遊びに来てくれています。

ぜひ、来年はみんなで楽しみたいですね。その日が来るまでがんばっていきたいと思います。

特集

コロナ禍の「今」を考える ～日常を大切に～

今回の特集はコロナ禍での通所事業所の「今」を取材しました。自粛が続く中、利用者の皆さんにとって作業所がどんな場所なのか見ていきたいと思います。



イリアンソスの通所事業所は、のぞみの家・なかまの家・活動センターかなえの3箇所です。合わせて約60名の方が利用されています。資源回収をしたり、ケーキ作りをしたり、バザーをしたり、喫茶店で接客をしている利用者の方もいます。月に1回は外出のレクリエーションがあります。外食やショッピング、カラオケやプール、公園にピクニックなどに行っています。

今年に入り、その活動内容は一変してしまいました。活動の自粛や縮小が続き、楽しみにしていた外出も制限せ

ざるを得ない状況になってしまいました。

そんな中であっても、各事業所が工夫しながら活動を進めています。利用者一人ひとりの願いに少しでも沿えるように試行錯誤の日々です。どんな状況にあっても決して悲観せず、感染予防をしながらの活動から新たな発見や広がりも感じることがありました。混乱の中だからこそ、日常を大切に。各事業所、そんなことを考えさせられる時間となっているようです。それぞれの事業所での取り組みや感じたことを紹介していきます。



り、仕事の相談をしたりしました。

▼チャレンジ班の取り組み
のぞみの家の2階で仕事をしている「チャレンジドリムズ班」は班の名前の通り、何事にも「チャレンジ」していく班です。
この状況の中で、掃除やケーク材料の在庫チェック。バザー品の整理など普段は手が回らないところの細かい仕事をしておこないました。
気分転換や運動不足解消にストレッチや仕事前にラジオ体操を皆で始めてみました。仕事に追われていることが多い班ですが、身体と気持ちを少しリフレッシュ。
予防でお休みしている仲間とはパソコンでのコミュニケーションも始めました。パソコン越しに会議をした



(上) 仕事前のラジオ体操

(下) 感染予防で自宅からパソコンで参加



自分の健康管理は、もちろんですが、同時に仲間を心配したり考えたりする時間も増えました。
人と人とのつながりの大切さや仲間に気持ちを伝える大切さを改めて感じる事ができました。
何よりも「仕事がしたい」

という気持ちも強く感じました。

▼レクの再開

なかまの家は平屋の建物なので普段からお互いの顔がよく見えます。皆で和気あいあいとした雰囲気の特徴の事業所です。しかし、コロナ禍では、ソーシャルディ

タンスの日々でした…。

そんな中、利用者の皆さんからは、「少しでも楽しめて、普段とは違う活動がしたい!」という事で、レクリエーションを企画。一番に挙げたのは、「おいしい物が食べたい!」その頃は、レストランも、まだまだ難しい状況でしたので、「ジュースを買って一休み」に、軟着陸。今まで当たり前のように計画していたレクリエーションですが、その意義や楽しみを改めて実感しました。

仕事とレク、どちらが欠けてもいけないなと思いました。それぞれを大切にしている場所。そんなことを思った出来事でした。

▼工夫を凝らして

活動センターかなえでも4月から「外出自粛」や「3密」を避けるようにしてきました。そのため今までの外出を伴う仕事や調理活動でご飯を作ったり、レクリエーションでいろいろな所へ出掛けたり、おいしいものを食べたりなどの楽しみが出来な



くなりました。

かなえの職員間でもこの
ような中、いかに皆さんが楽
しめるかを考えていきまし
た。なかまの家と同じく、皆
さん食べることが楽しみ！

特に調理活動は人気の活
動で1カ月に1回は買い物
に出かけて食材を購入して
昼食を作るということをし
ていました。かなえでは、調
理活動の代わりに「出前を取
ってお楽しみ昼食」を開催し
ました。選ぶ楽しみ、待つ楽
しみがありました。

この、ご時世で、ファミリ
ーレストランやお寿司の出

前など、メニューも豊富で楽
しさも倍増です。活動は、室
内が多くなってしまいがち
でしたので、近くの人が少な
い公園などに出掛けました。
やはり、外で身体を動かすの
はとても気持ちがいいよう
で皆さん笑顔が多く見られ
ました。

緊急事態宣言解除後も引
き続き注意を払いながら、室
内だけでなく屋外活動も少
しずつですが増やしていま
す。

▼少しずつ

6月にはレク活動内容を
「お昼ご飯を買って公園で
食べる」として狭山公園にコ
ンビニでお弁当を買い、木陰
に入ってみんなでご飯を食
べ、園内を散策してきました。
工夫を凝らしながら少しづ
つ活動範囲を広げていつて
います。

できることを探して、計画
していく。そんなことが大切
なのかなと感じています。

▼日常を大切に

元の生活に戻るには、まだ
まだ、長い道のりかもしれま
せん。今できることを工夫し

て実行していくことが大切
です。
その中心には利用者の笑
顔があることを忘れずにし
ていきたいと思えます。



入職式

4月1日、社会福祉法人イリアンソスの令和2年度の入職式がおこなわれました。本年度は、4名の新たな職員が採用になりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、3密を回避する形での開催となりました。理事長より、辞令の交付を受けた新人職員は、初々しさの中にも頼もしい表情もありました。式の後には、2日間の研修をおこないました。法人の歴史やビジネスマナーや各事業所の紹介などをおこないました。利用者さんと接する中で喜びや悩むことも多いと思います。これから共に色々な経験をしながら成長していけるよう応援していきたいと思えます。

辞令交付の様子



新人研修（イリアンソスの職員として大切にしたいこと）



健康衛生の取り組み

（利用者さんの心と体の健康を考え、守る）

イリアンソスでは、事業所の枠を超えて担当者会という会議を月に1回行っています。「健康衛生」「送迎車両」「防災環境」「きょうされん」の4つに分かれ、各事業所から1名ずつ選出され合同で話し合っています。

健康衛生では、利用者さんの健康のため、看護師や栄養士の専門家も含め毎回議論を重ねています。利用者一人ひとりが、自分らしく生活していくためにはどうしたら良いのか、何ができるのか、職員と専門家の意見が飛び交います。法人全体として情報を共有することで、いろいろなケースを学び、各事業所で活かすことができていると、とりわけ現在は、新型コロナウイルスの感染防止への対策を徹底しています。施設内の環境衛生を保つため、毎日、職員スタッフが机・イス・手すりなどの消毒と送迎後には車内も消毒しています。

利用者さんがいつも通り事業所へ元氣よく安心して通所（生活）できるよう、これからも気を引き締めて取り組んでいきます。



▲健康衛生担当者会議



なかまの家 (生活介護)

吉田貴吉(6年目)

支援の中で大切にしていることは、「なかまの声にしっかりと耳を傾ける」ことです。日々の活動のなかで様々な声を掛けられることがあります。相手の伝えたいことが分かるまで丁寧なやり取りをするのを大切にしています。利用者の皆さんは身振り手振りで気持ちを表現してくれますが、私自身が



活動センターかなえ (生活介護)

鹿島裕太(6年目)

私が大切にしていることは、レクリエーションや調理の活動です。レクの行き先や調理のメニューなどは自治会で決めており、みなさんとても楽しみにしています。最近では気温も上がってきましたが、広報配りや空き地の清掃など大変な活動にも頑張っており組んでいます。普段の仕事頑張っているからこそ、数少ないレクと調理の日は思いつ

職員のひそひそレレー

vol
5

きり楽しんでもらいたいと思っています。先日は狭山公園に行き、コンビニで買ったお弁当を食べ、園内散策、堤防から多摩湖を眺めました。自分が企画したレクを楽しんでもらえると、企画してよかったなあと思います。これからも利用者が最大限楽しめるように企画していきたいです。

前回、職員からのレレーです。

「仕事で大切にしていること」

今回は、日中通所の場の職員です。

全てを理解することができず、やきもきさせてしまうことも多々あります…。それでも、丁寧なやり取りを続けることが、信頼関係を築くことにつながると思っています。

思いが伝わらず苦しい思いをすることができただけ少なくなるよう、今後も言葉だけでなく表情や身体の動きなども捉えながらより良い支援ができるよう頑張っていきたいと思えます。

ご寄付をいただきました(6月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-452-6405

042-452-6415 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23

042-473-9667

～編集委員のつぶやき～

今のこんな状況だからこそ、みんなで何でもいいからアイデアを出し合って工夫して少しでも安心して楽しめる日常を作っていけたらなあと思います。

早く外出自粛を気にしないでおいしい日本酒を呑みに行ける日を心待ちにしている今日この頃です。

花形優(活動センターかなえ)

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵

花形優・高橋友紀・松森大輔・廣智章・寺内慧佑

※ホームページからもご覧いただけます。



定価100円

表紙の写真 「生活寮うみ・そら」

ご近所の方から、たくさん実のなった、さくらんぼの木を頂きました。入居者の皆さんと一緒に摘みました。

と～っても甘くて美味しかったです。

ありがとうございました。